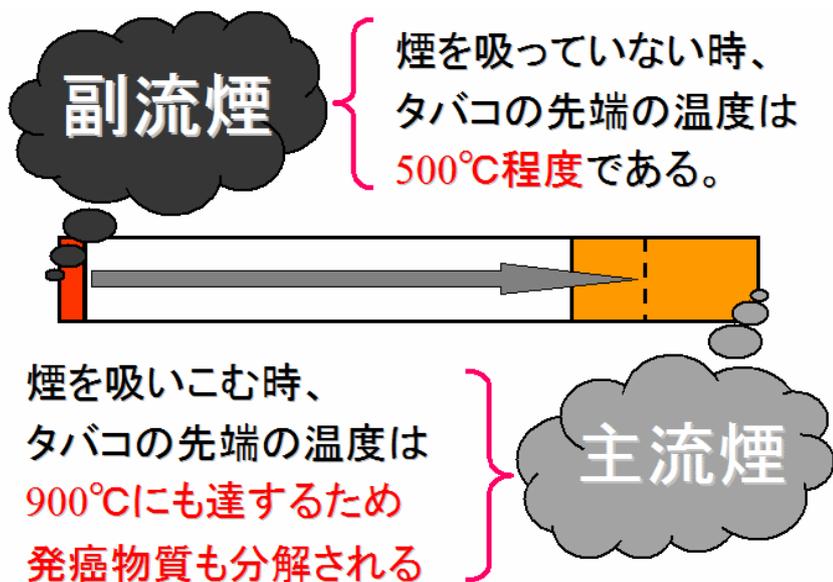


# 週刊 タバコの正体

下のタバコの図を見てください。左側が火の付いている先端部分で、右側がスポンジのフィルターがついている吸い込み口なのですが、本人が吸い込む煙(右側)を“主流煙”、吸い込んでいない時に先端からでる煙(左側)を“副流煙”と呼びます。

そこで、喫煙者がタバコを吸っている姿を思い浮かべて下さい。火を付けてから吸い終わるまでの時間と実際に煙を吸い込んでいる時間を比べると、どちらが長いでしょうか。そう言われれば、吸い込んでいる時間よりも手に持っている方が長いような気がしますよね。

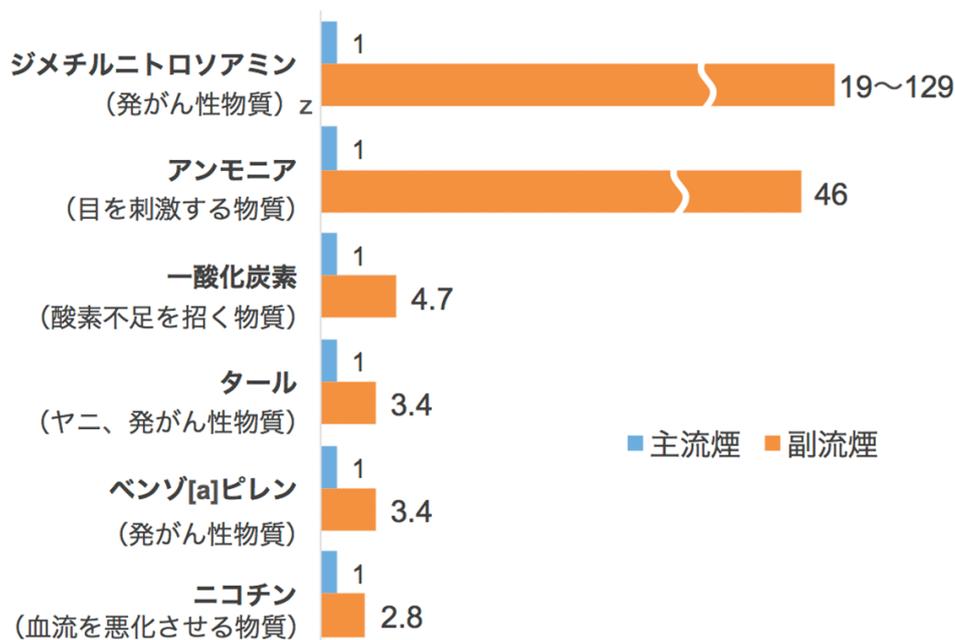


(一社)日本生活習慣病予防協会 HP から

と言うことは、タバコを吸っている人の周りには“副流煙”を吸いこまされているわけで、この状態が「受動喫煙」なのです。

そして、じつは一見頼りなさそうに見えるうっすらとした副流煙は、かなり有害なのです。なぜかと言うと、主流煙に比べ燃焼温度が低く不完全燃焼の煙である上に、吸い込み口にはついているフィルターがありません。

## タバコの主流煙と副流煙に含まれる有害物質



参考：厚生労働省の最新たばこ情報 より作図

具体的には左のグラフにあるように、主流煙に含まれる有害物質を“1”とすると副流煙には100倍以上も含まれるものもあるので、「受動喫煙」は非常に危険なのです。

ちょっとびっくりしますよね。と同時に「だったら、近くで吸わないで」と思いませんか。

だから、いろんな所が“禁煙”になっているのは当然なのです。